令和５年１１月１日

令和５年度　クマ被害対策等に関する関係省庁連絡会議
（概要）

日　時：令和５年 10 月 31 日（火）16:30-17:30

場　所：共用第９会議室（合同庁舎５号館 17 階）

出席者：警察庁、農林水産省、林野庁、環境省、
　　東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科　山﨑晃司教授

概　要：
　連絡会議の概要は、以下のとおり。

① 令和５年９月末までのクマ類の出没や人身被害、農作物被害と対策等の状況及び各省庁における被害防止対策に向けた取組事項等を共有し、意見交換を実施。

② 東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科の山﨑晃司教授からクマ出没のメカニズムについて説明があった。山中のどんぐりなどの食物が不足の場合は、冬眠時期が早まること、ただし、山中に食物がなくても、放任果樹など人の生活圏に食物があれば冬眠入りが遅くなることが報告された。人の生活圏にこれ以上クマを侵入させないため、柿など誘引物の管理（摘果、伐採、トタン巻き）、人の生活圏との境界線あるいは進入路の環境整備（刈払い）などの対策が重要との話があった。

③ 今後も関係省庁が緊密に連携して人身被害の低減に向けて引き続き取組を図っていくことを確認。

令和５年度第２回クマ被害対策等に関する関係省庁連絡会議

議事次第

令和５年 10 月 31 日（火）16:30－17:30
共用第９会議室（合同庁舎５号館 17 階）

【議題】

１　令和５年度クマ類出没状況等について（各省からの報告）

２　その他

【出席者】

警察庁生活安全局保安課	保安課長	松下　和彦
	保安課課長補佐	中渕 恵太郎
農林水産省農村振興局農村政策部鳥獣対策・農村環境課	課長	藤河　正英
	課長補佐（鳥獣被害対策技術普及班）	谷川　智雄
	鳥獣被害対策技術普及第１係長	堀澤　正一
林野庁	研究指導課森林整備部研究指導課森林保護対策室　室長	竹内　学
	課長補佐（企画班）	山下　広
	国有林野部経営企画課国有林野生態系保全室　室長	森山　昌人
環境省自然環境局野生生物課	課長	中澤　圭一
	鳥獣保護管理室　室長	宇賀神 知則
	室長補佐	村上　靖典
	室長補佐	佐宗　等征
	係員	福田　幸音
東京農業大学地域環境科学部森林総合学科森林生態学研究室	教授	山﨑　晃司

【配付資料】

資料１　令和５年度クマ類出没状況等について（環境省）

資料２　農林水産省資料

資料３　東京農業大学山﨑晃司教授資料

参考資料１～４　　クマによる人身被害件数・人数・出没・捕獲数（月別）

参考資料５　　堅果類の着花結実情報について（速報値）

資料1

環境省

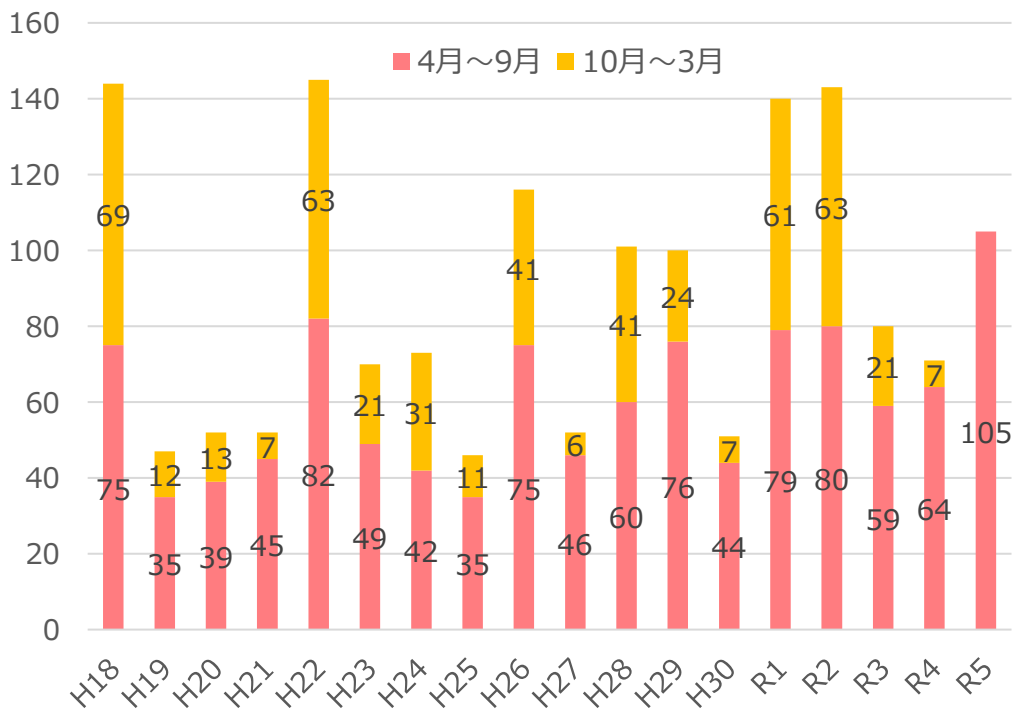
令和５年度クマ類による人身被害の発生状況について

○　令和５年９月末までの**クマによる人身被害の発生件数（人数）は105件（109人、うち死亡２人）**となっており、**統計のある平成18年度以降最多ペース**。

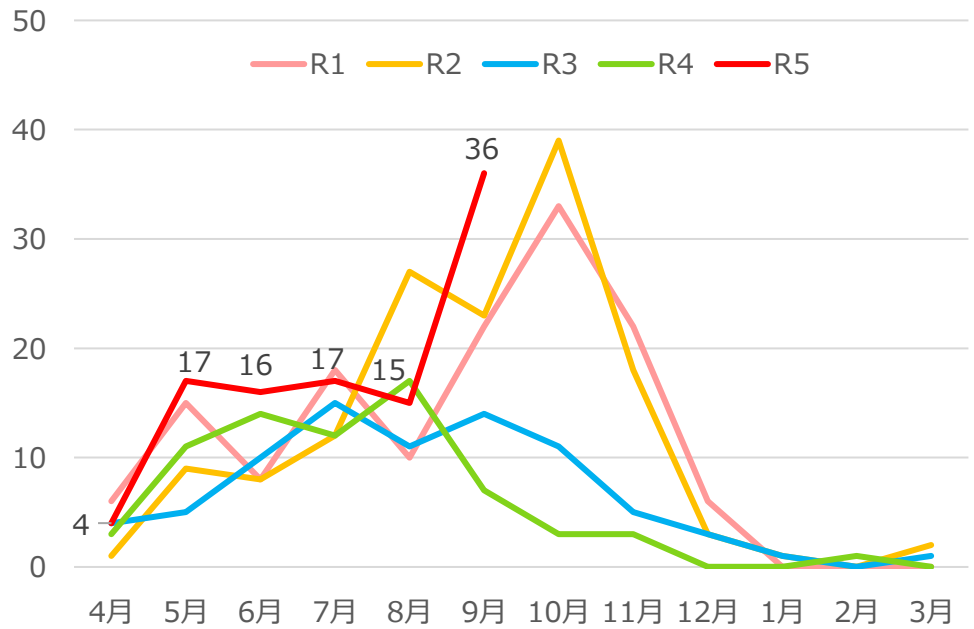
○　都道府県別の人身被害の発生件数（人数）は、秋田県28件（28人）、岩手県26件（27人）、福島県13件（13人）、長野県８件（９人）、青森県６件（７人）の順になっている。

○　10月に入っても、**秋田県を始めとした東北地方を中心に人身事故が多発**しており、**クマの冬眠まで最大限の警戒が必要**。

クマによる人身被害件数（年度別）



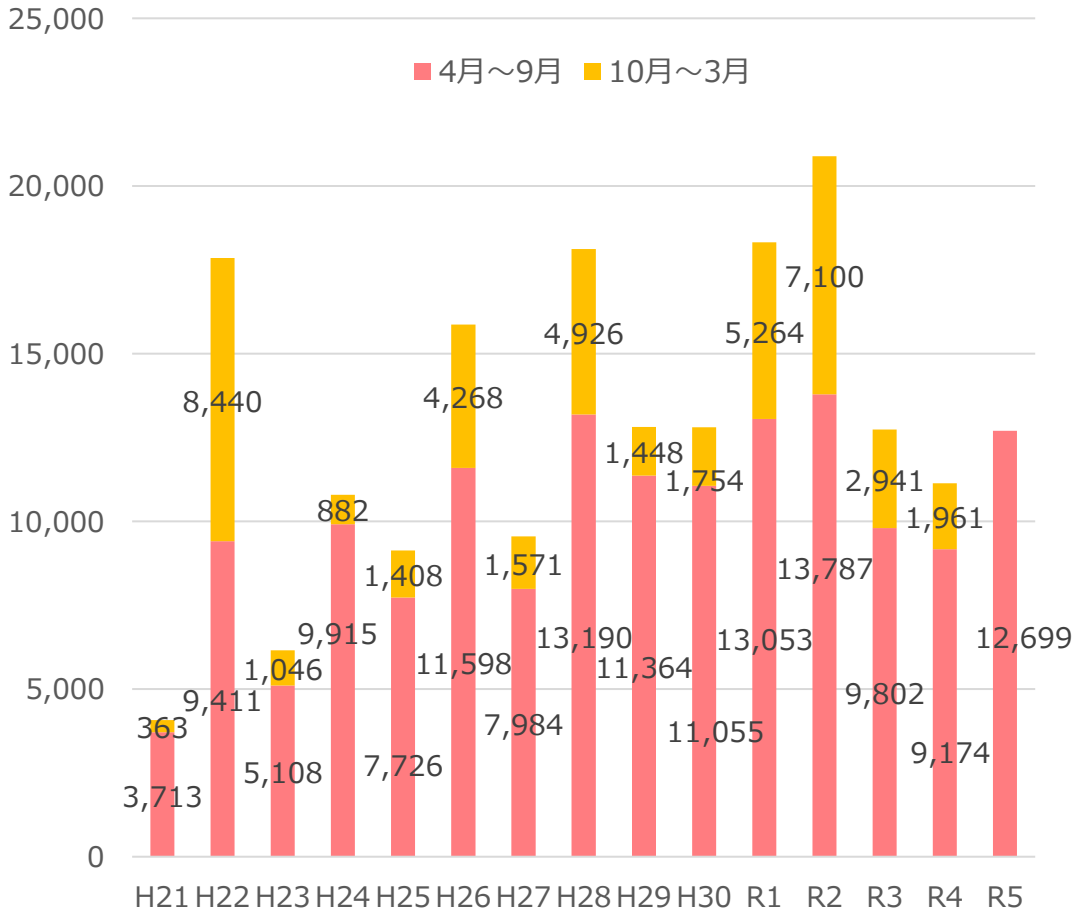
クマによる人身被害件数（月別）



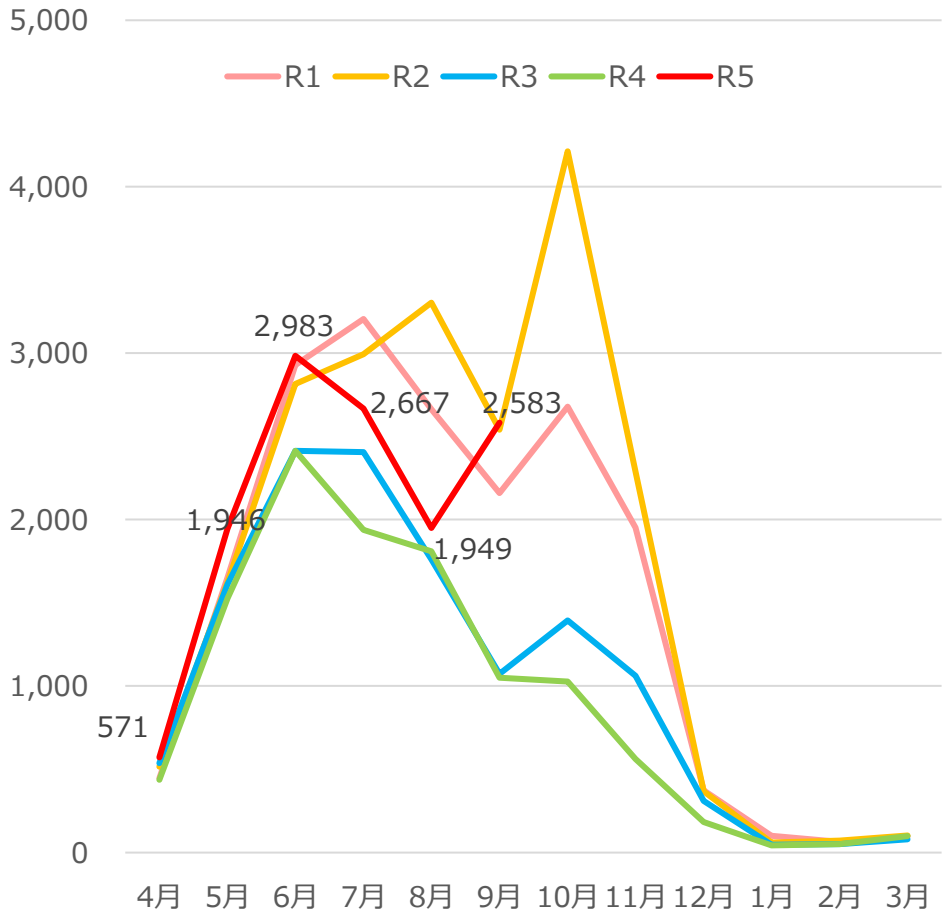
出典：環境省調べ

令和５年度クマ類の出没状況について

クマの出没件数（年度別）



クマの出没件数（月別）



出典：環境省調べ

クマによる人身被害の防止に向けた伊藤信太郎環境大臣の談話

環境省

令和５年10月24日（火）

○　クマによる人身被害の増加を受けて、本日、お配りしているとおり、大臣談話を発出しました。

○　今年度のクマによる人身被害の件数は、９月末時点で全国計105件であり、統計を取り始めた平成18年度以降で最も多い数となっています。また、10月に入ってからも、各地で人身被害が相次いで報告されています。

○　重要なことは、人とクマとの距離を確保することです。国民の皆様に、改めて３つの注意をお伝えします。

○　一つ目は、自治体が出している出没情報などに注意しつつ、クマの生息域へはむやみに入らないことです。やむを得ず入る場合には、単独行動を避ける、鈴などの音の出るものやクマ撃退スプレーを携帯する、などの対策をとってください。

○　二つ目は、クマと出会った際には、落ち着いて距離をとることです。慌てて走って逃げることはせず、クマを見ながらゆっくり後退してください。至近距離で出会ってしまったら、両腕で顔面や頭部を覆い、直ぐにうつ伏せになるなど、致命的なダメージを最小限にとどめる行動をとってください。親子クマと出会った場合には、母グマは子グマを守ろうと攻撃的になります。子グマが単独でいる場合でも、母グマが近くにいる可能性が高いため、速やかにその場を離れる、といった行動をとるようにしてください。

○　三つ目は、クマを人里に引きつけないようにすることです。柿などの果実やクマを誘引する農作物を適切に管理する、生ごみ等が餌とならないよう適切に処分する、といった対応をお願いします。

○　冬眠の期間に入るまで、これらの対策が必要になります。環境省としては、関係省庁とも連携し、自治体にも協力を再度お願いし、これらの注意点について地域住民の方々にも周知をしていきます。クマによる人身被害防止に向けて、国民の皆様のご協力をお願いします。

クマ対策専門家緊急派遣事業

環境省

○　環境省では、鳥獣保護管理に関する専門的な知識や経験を有する専門家を**「鳥獣プロデータバンク」に登録**し、都道府県等に紹介しています。

○　今シーズンのクマの大量出没を踏まえ、**都道府県・市町村の要請を受け**、本データバンクに登録されている**クマ対策の専門家をクマの出没地域に派遣**し、出没対策等の指導・助言を行います（専門家の派遣に係る謝金・旅費は、環境省が負担します）。

対象（派遣先）

○　都道府県又は市町村（クマの出没地域）

利用方法

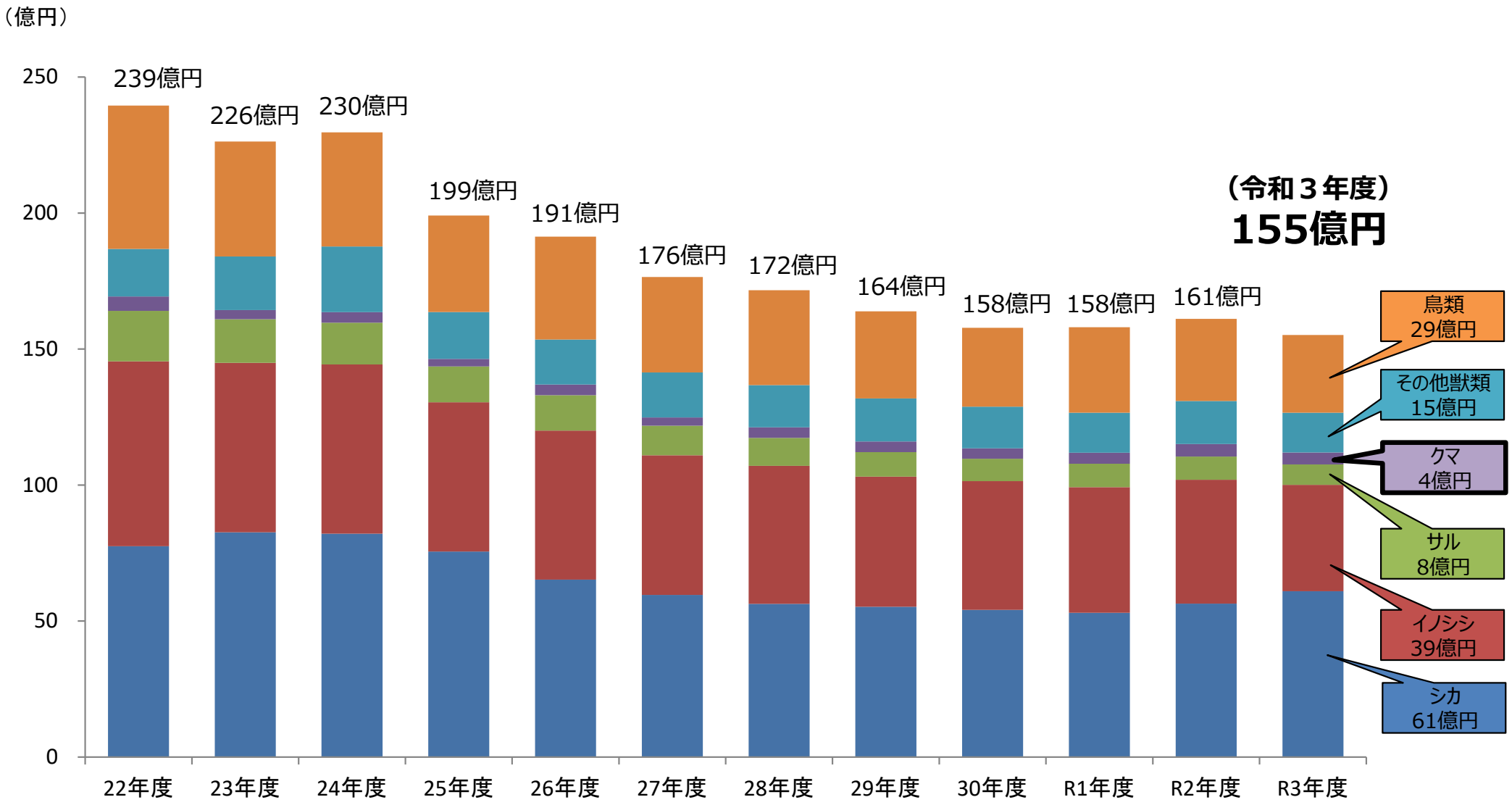
①　事務局に電話・メールで相談（鳥獣プロデータバンクに登録されている専門家を検索）
②　事務局に「利用申請書」を提出
③　事務局からの連絡を受け、専門家に依頼
④　専門家と活動内容（出没要因の調査、誘因物の管理、学習会など）を調整し、活動を実施
⑤　「活動報告書」を事務局に提出

問合せ先

鳥獣保護管理に係る人材登録事業運営事務局（一般財団法人自然環境研究センター）
TEL: 03-6659-6639　E-mail: choujujinzai@jwrc.or.jp
（本事業に係る担当：環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室）

資料2

野生鳥獣による農作物被害状況の推移



(注) 1 .都道府県の報告による（都道府県は、市町村からの報告を基に把握を行っている）。

2 .ラウンドの関係で合計が一致しない場合がある。

【出典】「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について」（農林水産省）

令和3年度　野生鳥獣による農作物被害額（作物別）

	イ　ネ	ムギ類	マメ類	雑　穀	果　樹	飼料作物
鳥獣計	340,166	37,803	44,211	12,202	329,083	282,567
ク　マ	1,780	1,639	385	1,173	8,559	16,039

（単位：万円）

	野　菜	いも類	工芸作物	その他	合　計
鳥獣計	371,806	71,215	51,994	10,523	1,551,568
ク　マ	9,240	653	4,279	52	43,799

（注）1.都道府県の報告による（都道府県は、市町村からの報告を基に把握を行っている）。

2.ラウンドの関係で合計が一致しない場合がある。

【出典】「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について」（農林水産省）

◆コラム◆

クマ対策について

(1)クマ類の分布と特徴

日本には、ヒグマとツキノワグマの2種類が生息しており、ヒグマは北海道、ツキノワグマは本州、四国に分布している。近年は、四国を除いて全国的に生息域の拡大が認められている。クマは食肉類に分類されるが、植物を中心とした雑食性で、春は草木の新芽や若葉、夏は草本やベリー類、ハチ、アリなどの社会性昆虫、秋は越冬に備えてコナラ、シバグリなどの堅果類やクマノミズキなどの液果類を大量に食べる。クマにはなわばりはなく、オスとメスの行動圏は重なる。日の出と日の入りの時間帯に採食行動が活発になるが、人里の誘引物に執着すると夜間の行動が大胆になる。

初夏～夏にかけては繁殖期であるが、受精卵の着床は冬まで遅延する。冬～春まで樹洞や土・岩穴で越冬をし、メスはその間に出産する。母親と子を除いて、基本的には単独で行動する。

写真1　ヒグマ

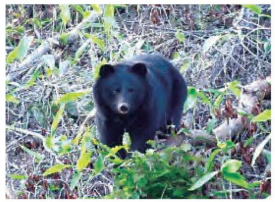


写真2　ツキノワグマ

(2)クマの被害

主な被害は、トウモロコシや柿、クリ、ナシなどの果実、家畜用の濃厚飼料、養蜂などの食害である。また、田畑へ放棄された生ゴミや放置された柿、クリなどが誘引物になって、クマを人里へ引き寄せる原因になる。そのため、生ゴミの適正な処理や不要な果樹は伐採するなどの誘引物をなくす対策が重要である。なお、被害の発生は、誘引物に執着した特定の個体による場合が多い。

写真3　クリ園での食害による枝折り

写真4　家畜用の濃厚飼料の食害

写真5　誘引物となっている放置された柿果実の除去

◆コラム◆

(3)クマの被害対策

クマによる農作物等への被害対策は、これまで様々な方法が実施されてきた。金網フェンスなどの侵入防止柵は、木登りが上手なクマは登って突破する。各種の忌避資材等は、一時的には効果があっても長期的には慣れが生じて効果が低下する。現在、畑や果樹園を囲む侵入防止柵のうち、高い効果があるのは電気柵だけである。強い電気ショックを与えるためには、クマの鼻先を確実にポリワイヤーに触れさせなければならない。クマの場合は、地面から20cm、20cm、20cmの3段でポリワイヤーを設置する(図1)。また、電気柵を学習した個体の中には、ポリワイヤーに触れないように地面を掘って侵入を試みようとする個体もいる。この場合は、電気柵の手前30～50cmのところに1本の複線を設置すると効果的である(図2)。

ただし、電気柵は、適切な設置と維持管理が出来ていなければ高い侵入防止効果は得られない。とくに、漏電を防ぐための下草管理は重要である。クマは日中も行動するので、電気柵は昼夜切り替えモードにはせずに24時間の通電にしておく必要がある。また、コンポストは、環境に配慮された生ゴミ処理器であるが、クマを誘引する場合があるので、電気柵で囲うか、使用しないことをお勧めする。さらに、民家庭先の柿の幹には、トタンを巻いて登らせない対策も有効である。クマの被害対策は、人里へ引き寄せない環境改善と電気柵の設置が不可欠である。

図1　クマ対策用の電気柵の張り方

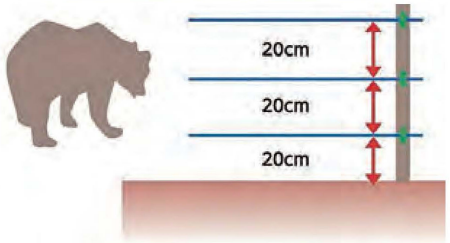
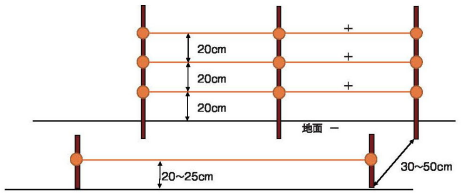


図2　電気柵複線タイプの設置方法



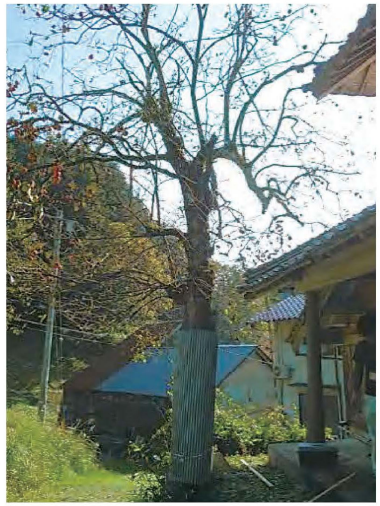


写真6　民家庭先の柿の幹に巻いたトタン

農村集落に鳥獣を寄せ付けない環境を整えたい！

被害防止対策を効果的に実施するためには、ほ場や集落を餌場としないこと、見通しの良い地帯等の緩衝帯の設置により、人と鳥獣のすみ分けを進めることに加え、獣種の生態や地域の環境に合わせた複合的な対策を一体的に実施することが重要です。

【緩衝帯等の整備】

（１）支援内容

・緩衝帯の設置
・放任果樹の除去
・雑木林の刈り払い
・鳥獣の追い払い

（２）補助率

１／２以内
（実施隊が行う場合は、定められた上限額以内で定額支援）
※大規模緩衝帯（1ha以上）を整備する場合の上限単価：48万円/ha

緩衝帯の整備

放任果樹の伐採

【サル複合対策】

(1)支援内容
生息調査 を実施した上で、捕獲・追い払い・追い上げ・侵入防止・技術実証・生息環境管理のうちから２つの取組を選択し、それを実施するための経費

(2)補助率　定額

【限度額】
※１市町村あたり
100万円以内

GPS等による調査・追払い

【クマ複合対策】

(1)支援内容
生息調査、調査に基づくゾーニングと生息環境管理を含む地域ぐるみの総合的な対策の実施に係る経費

(2)補助率　定額

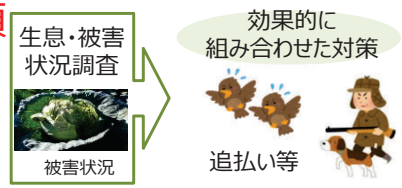
【限度額】
※１市町村あたり
取組数に応じ100万円、又は200万円

【鳥類複合対策】

(1)支援内容
① 専門家の知見に基づく生息・被害状況調査、地域が一体となった取組体制の構築
② ①を踏まえた防除対策や捕獲対策等を効果的に組み合わせた対策

(2)補助率　定額

【限度額】
※１市町村あたり
100万円以内



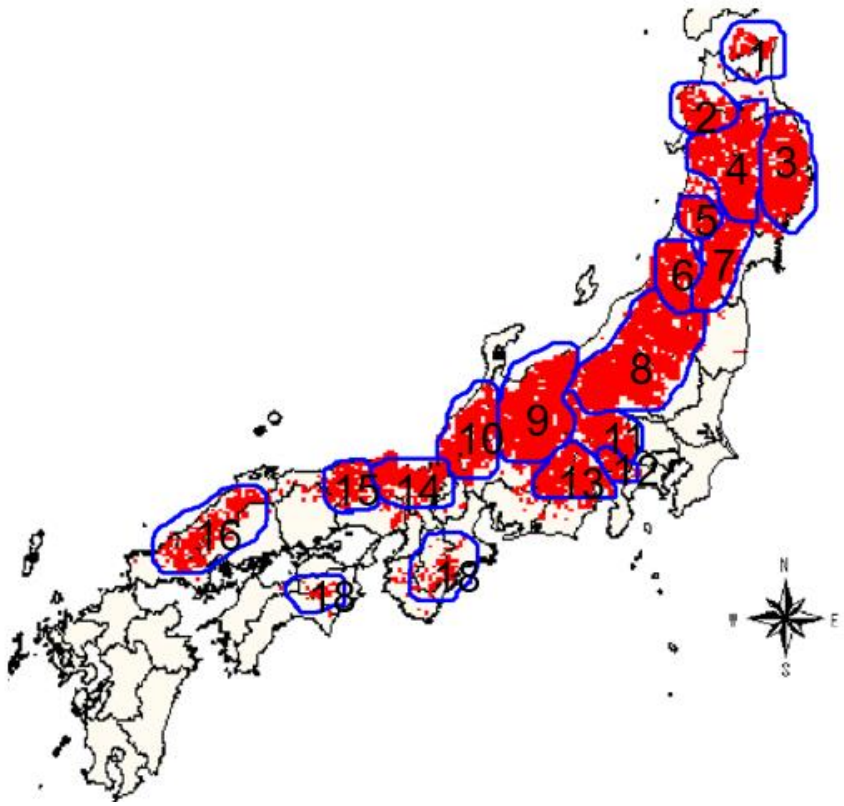
クマ関係省庁連絡会議

2023年10月31日

東京農業大学　地域環境科学部　森林総合科学科
山﨑　晃司

今秋の収束後に状況の整理が必要

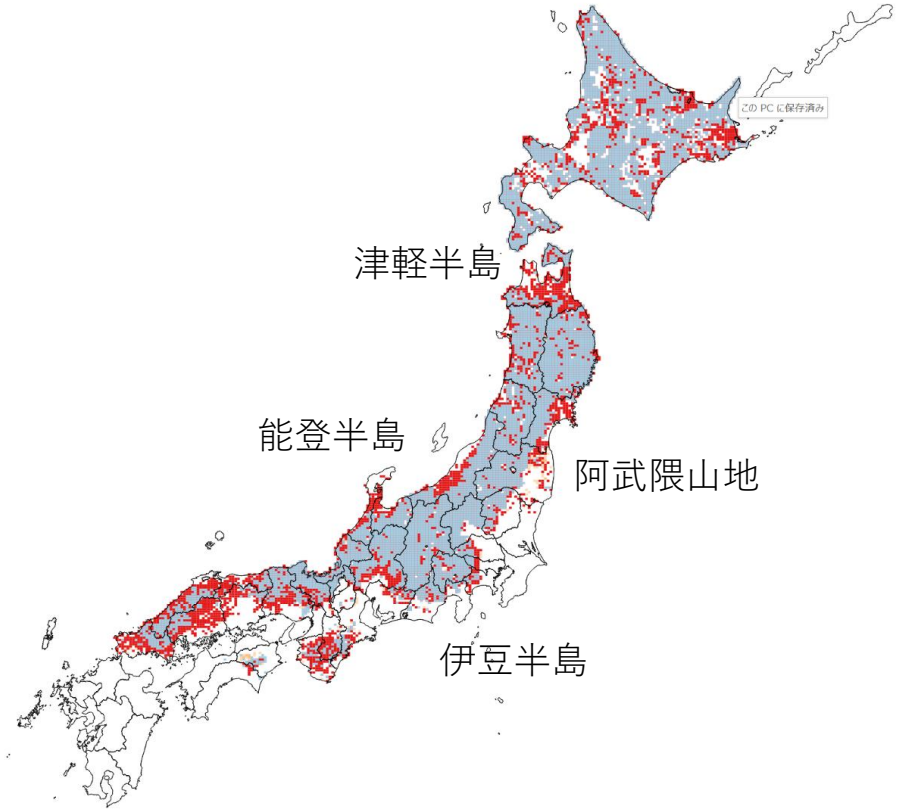
- 出没はすべての集団（個体群ユニット）で起こっていたのか？　⇒　兵庫の事例など
- 出没（捕殺）した個体の特徴は（オス，メス，幼成）？
- 出没した個体の栄養状態は？
- 事故に遭った方々の状況は？



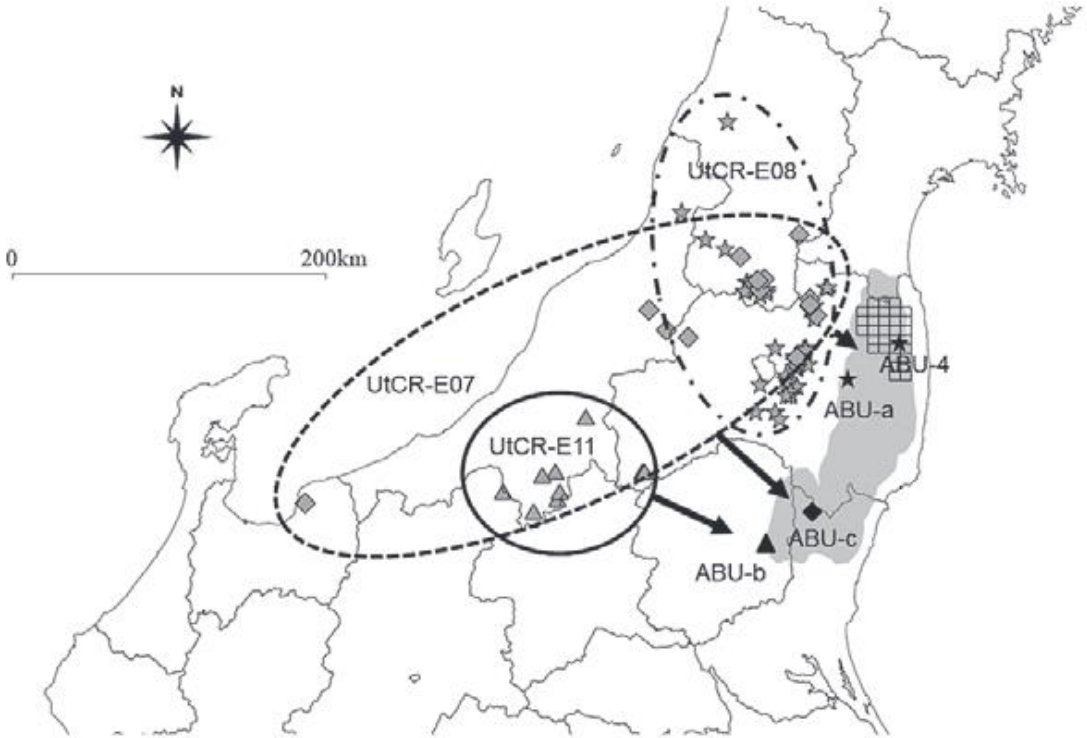
本日の情報提供は，これらの整理がない状況下での暫定的な個人的見解　⇒　科学的な見地からの見解は日本哺乳類学会保護管理委員会クマ作業部会や日本クマネットワークなどが今後まとめる可能性。疲弊が心配されるが，各自治体も分析を独自あるいは委託して進めることが今後必要。出没は2016年以降常態化している。

クマ出没のメカニズム（背景として）

➢分布域と個体数の増加　メスも最前線に　⇒　本州および北海道
（九州は絶滅，四国は残存20頭程度）

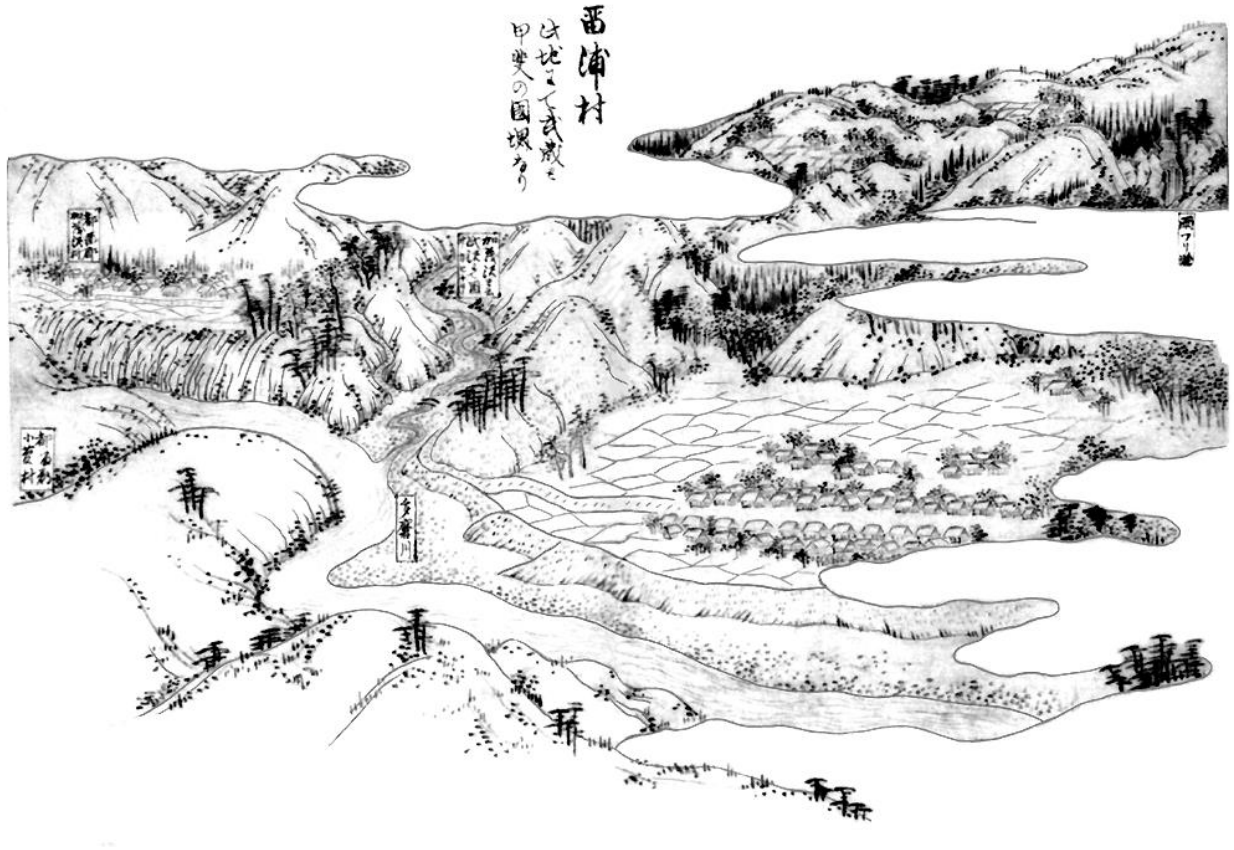


クマ類の分布拡大　水色；環境省2003，オレンジ：日本クマネットワーク2013，赤：環境省2018



阿武隈山地へのクマの進入　山﨑ほか(2023)
DOI: 10.11238/mammalianscience.63.185

クマの生息環境としての森林の変遷

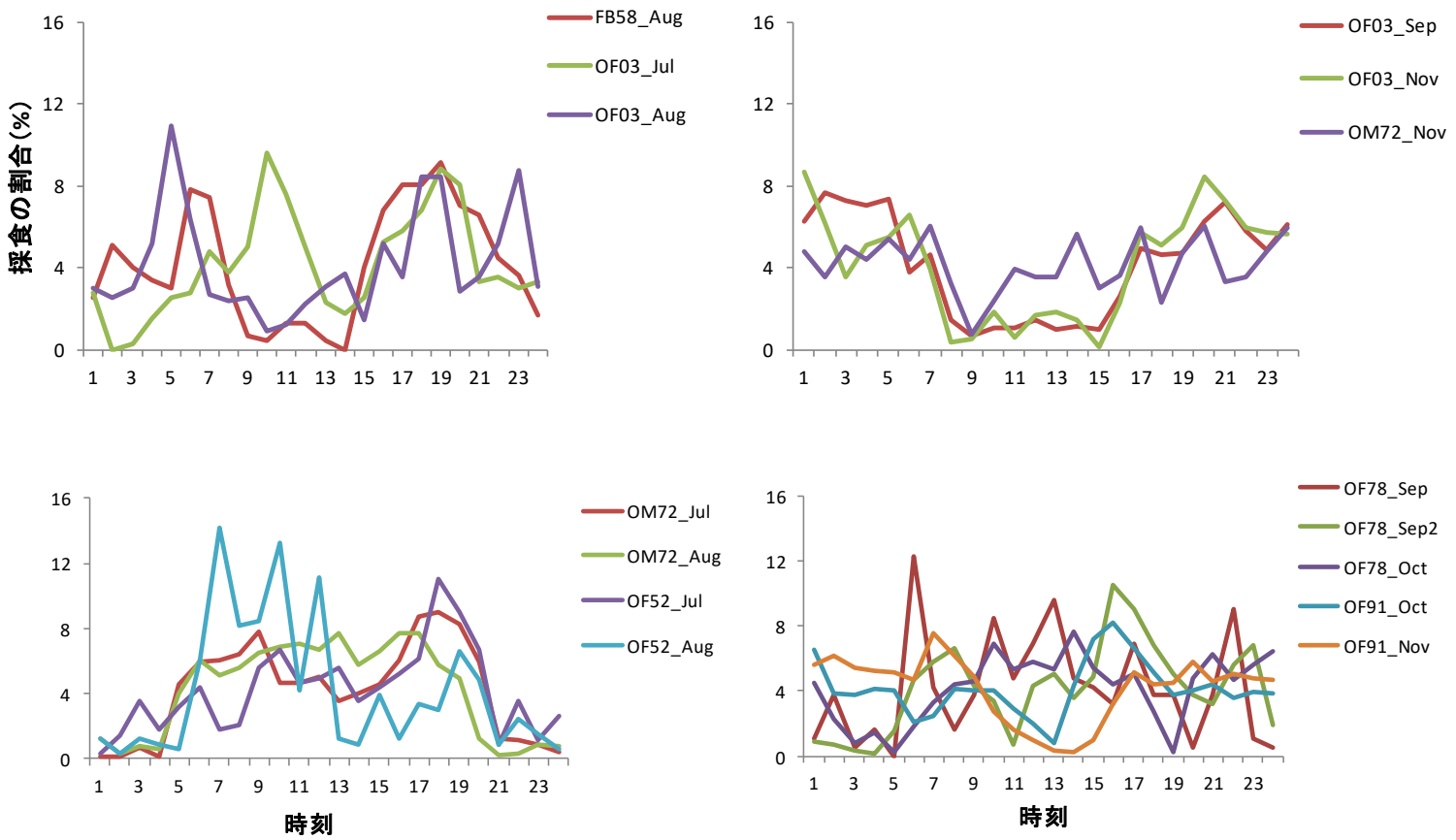


1800年代初期の東京都奥多摩町留浦地区
（新編武蔵風土記稿より）

現在の東京都奥多摩町留浦地区

クマ出没のメカニズム（背景として）

- 人を恐れないクマの出現　⇒　人の生活空間で日中活動するクマの出現
  （これまでは，人の生活空間に進入する場合は夜行性に行動シフト）
- 罠捕獲はその時点でクマは捕殺になるため，クマに学習の機会を与えない　⇒　犬や銃による圧力をかける必要性

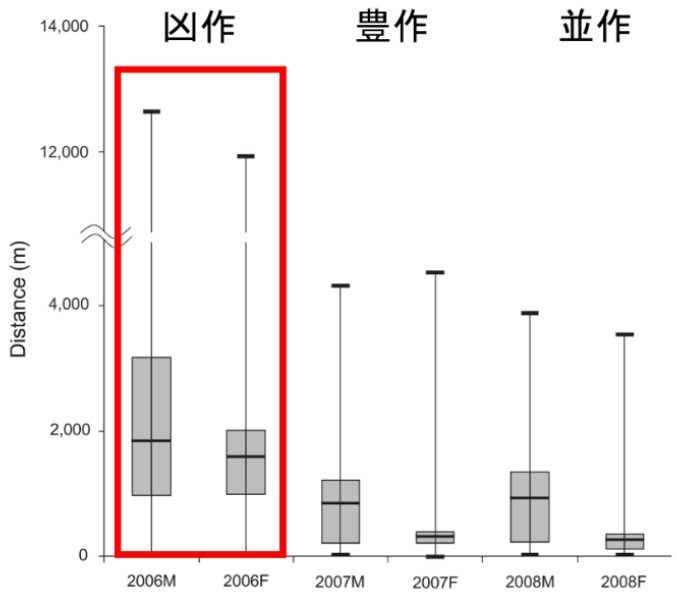


奥多摩山地でのクマの活動パターンの相違　上：集落近く（夜行性），下：奥山（昼行性）
有本ほか（2014）　哺乳類科学　54(1)：19-31

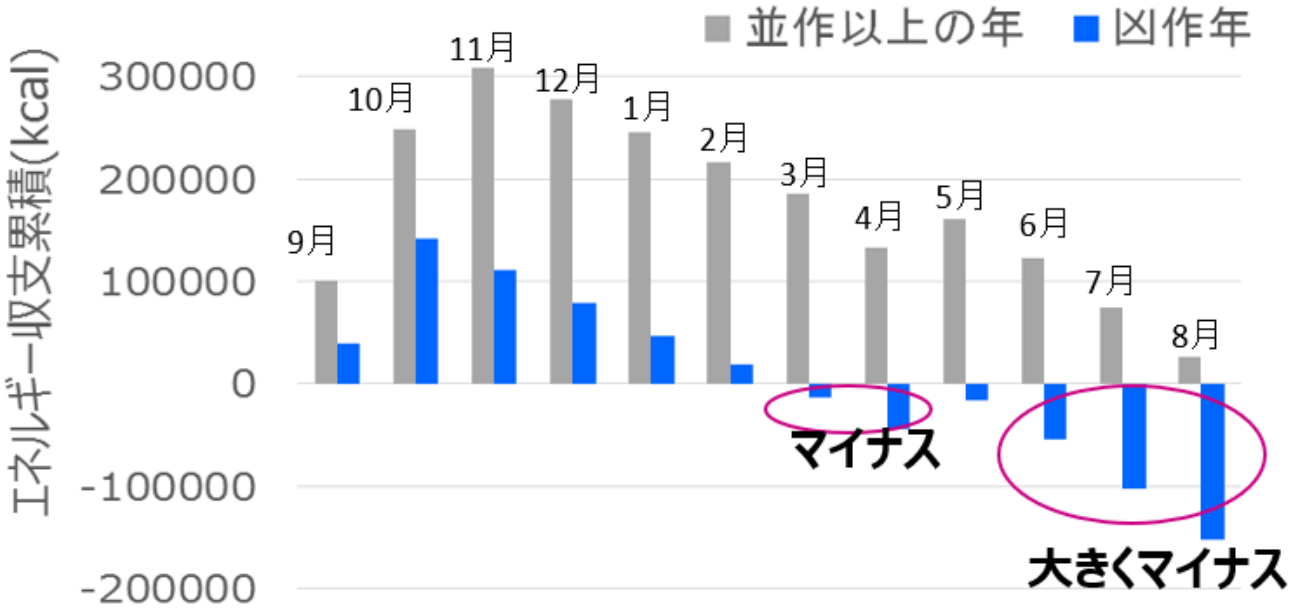
クマ出没のメカニズム（引き金として）

地域によって引き金は異なる

- 秋の飽食期の食物不足（ブナ，イヌブナ，ミズナラ，コナラ，サケ・マスなど）
- 前年秋期の食物不足　⇒　秋田県2022年はブナ豊作



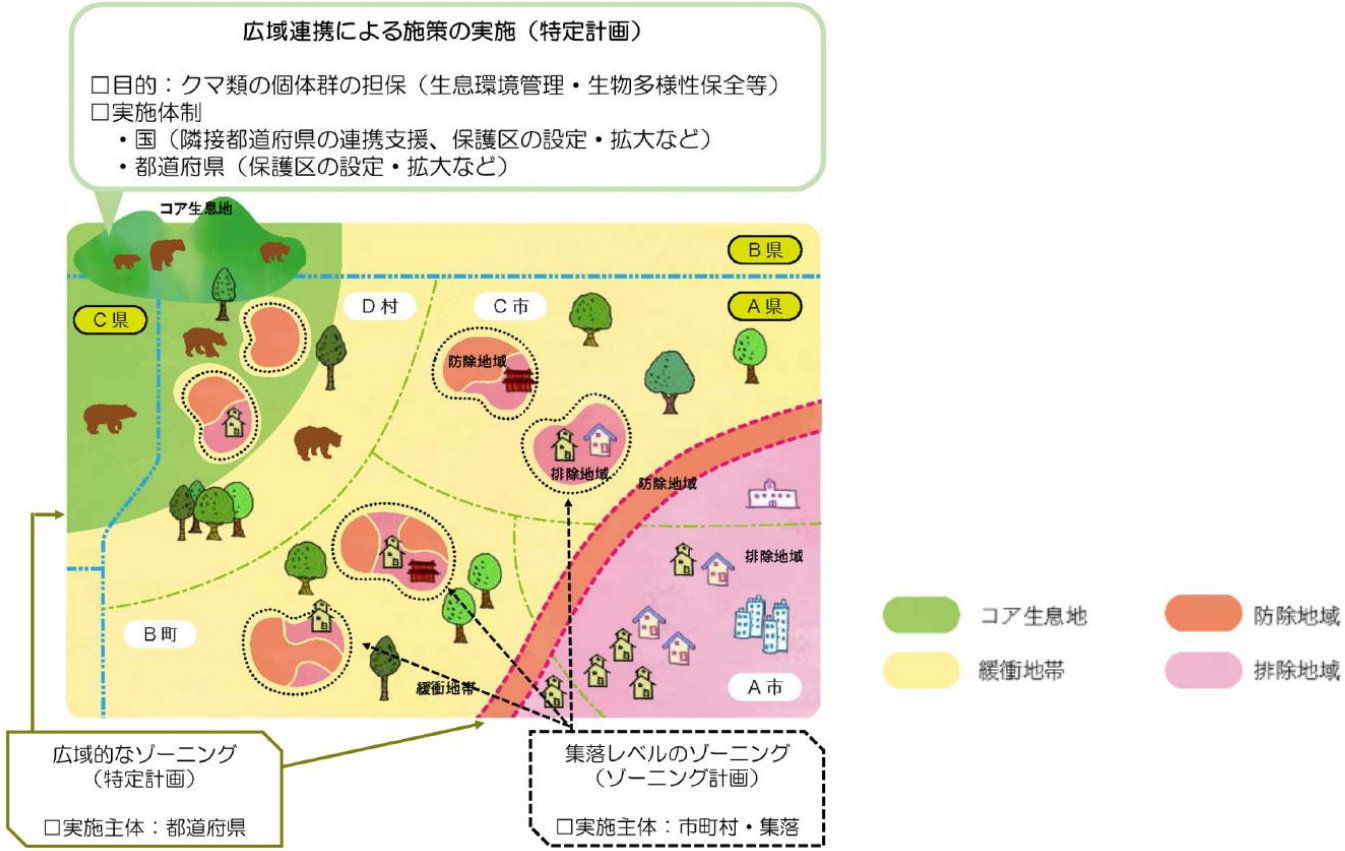
秋期の堅果結実量の相違によるオス・メスの移動距離の変化　(Koike et al. 2014)
http://dx.doi.org/10.3106/041.037.0103

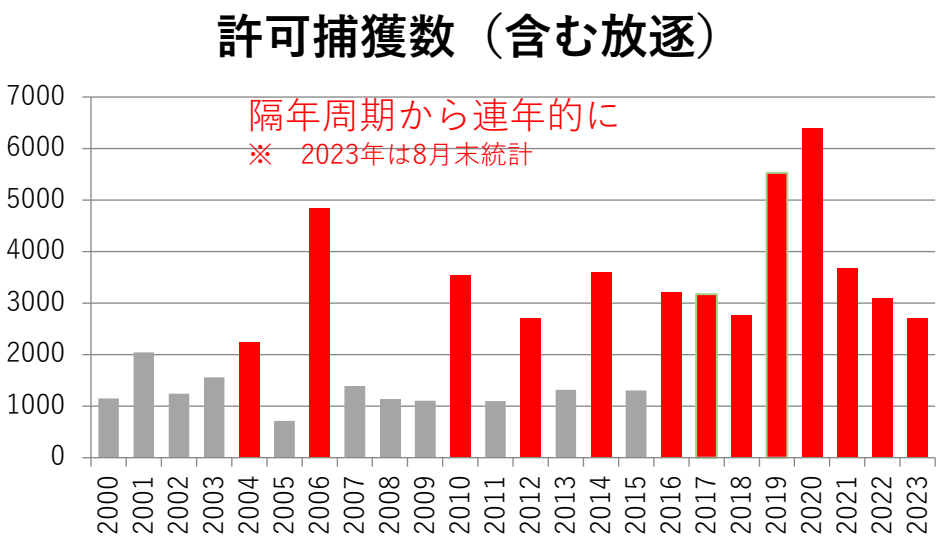


秋期を始点としたエネルギー蓄積量の推移
（Furusaka et al. 2019）
https://doi.org/10.1002/ecs2.2891

クマ出没のメカニズム（背景として）

- 個体数をゼロあるいは抑制すべきゾーン（排除地域，防除地域：ゾーニング管理）での管理（捕獲作業）が限界にきている
- 捕獲上限値を捕獲目標値に切り替えるべきという意見も





クマ出没のメカニズム（引き金として）

地域によって引き金は異なる

- 人の生活空間での代替え食物の存在（クリ，カキ，リンゴなどの果実，家畜飼料（ペットフード含む），残飯，肥料用コンポストなど）
- 人の存在を恐れないクマの出現　⇒　市街地への進入　⇒　結果としてパニックを起こすクマ
- 孤児グマの増加　⇒　今後の検証が必要
- 捕獲罠（誘因餌）の大量設置によるクマの誘引　⇒　今後の検証が必要

今後のクマの動きの予測

- 出没引き金が秋の食物不足の場合は，冬眠入りが早くなる　⇒　通常は12月が11月上旬などに
- ただし，山中に食物がなくても人の生活空間に食物があれば冬眠入りは遅くなる

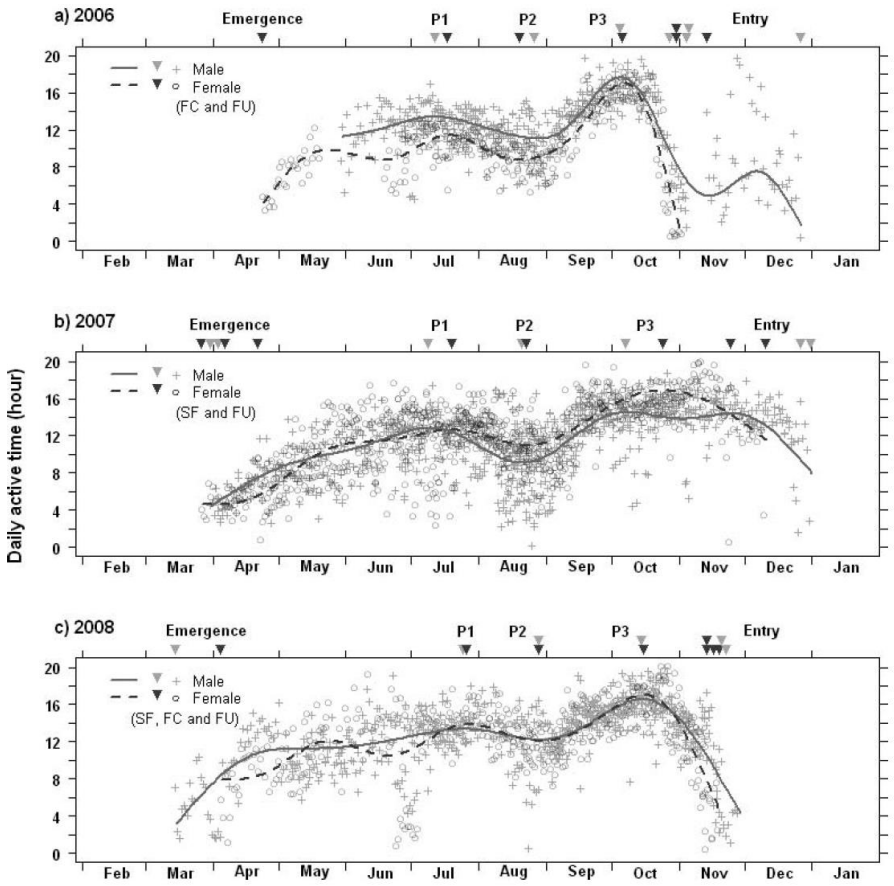


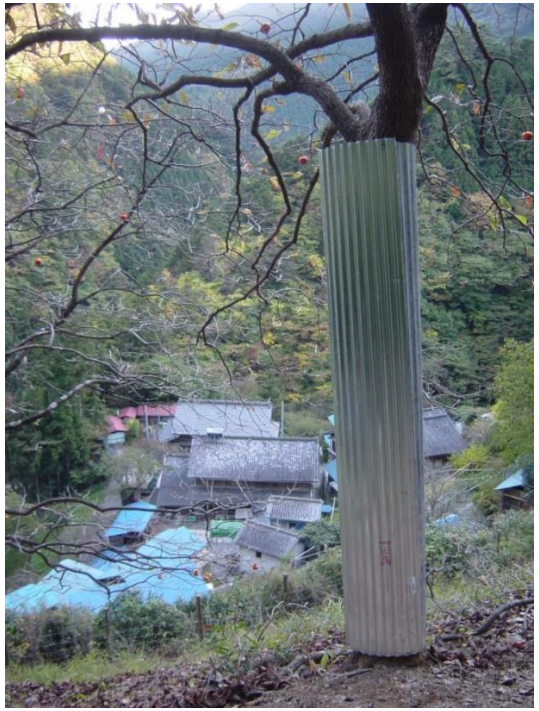
FIG. 4.—Seasonal fluctuation in daily active time predicted by generalized additive mixed models and dates of den emergence and entry for Japanese black bears (*Ursus thibetanus japonicus*) in the Ashio-Nikko Mountains, Japan (2006–2008). Triangles represent turning points (P1, P2, and P3), which changed from increasing to decreasing or from decreasing to increasing, and times of den emergence and entry. SF = solitary female, FC = female with cub(s), FU = female of unknown reproductive status.

秋期の堅果結実の多寡による冬眠入り時期の変化
（Kozakai et al. 2019）
Journal of Mammalogy　94(2): 351-360

人の生活空間にこれ以上クマを進入させないための管理

- 排除地域・防除地域などのゾーンでの捕獲や追い上げの強化
- カキなどの誘因物の管理（摘果，伐採，トタン撒きなど）
- 境界線あるいは進入路の環境整備（例：刈払い）
- 境界線あるいは進入路での物理的遮断（例：局所的な電気柵設置）
- 孤児グマの管理

伐採，刈り払い，電気柵，費用はどこから？



参考資料１

クマによる人身被害件数（月別）

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
4月	75	1	2	2	1	3	4	5	5	5	4	9	8	6	1	4	3	4
5月		5	10	12	18	9	7	9	11	15	14	15	6	15	9	5	11	17
6月		7	5	10	6	11	6	5	11	15	12	13	7	8	8	10	14	16
7月		7	5	4	12	11	11	5	5	4	7	13	10	18	12	15	12	17
8月		8	7	5	19	10	6	9	12	4	15	15	6	10	27	11	17	15
9月		7	10	12	26	5	8	2	31	3	8	11	7	22	23	14	7	36
10月	49	6	8	3	33	10	20	6	25	3	26	13	6	33	39	11	3	
11月	15	3	5	2	25	7	9	2	12	1	12	8	0	22	18	5	3	
12月	3	2	0	1	4	3	1	2	1	1	3	2	1	6	3	3	0	
1月	0	1	0	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	
2月	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
3月	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	2	1	0	
合計（4月～9月）	75	35	39	45	82	49	42	35	75	46	60	76	44	79	80	59	64	105
合計（4月～3月）	144	47	52	52	145	70	73	46	116	52	101	100	51	140	143	80	71	105

※平成18年度は、4月～9月の月別の件数は把握していない。

クマによる人身被害人数（月別）

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
4月	75	1	3	3	1	3	5	5	5	5	6	11	8	7	1	4	3	5
5月		5	11	13	19	9	7	12	12	15	14	15	6	16	10	5	12	17
6月		7	6	10	7	13	6	8	11	16	12	14	7	9	8	13	14	17
7月		7	6	4	12	14	11	7	5	4	7	14	10	18	13	15	13	17
8月		8	7	6	19	11	6	10	12	5	16	17	6	10	29	12	19	15
9月		7	12	20	26	5	8	2	33	3	8	11	7	22	25	14	7	38
10月	49	6	9	3	36	13	22	7	26	4	27	14	6	37	46	12	3	
11月	15	3	5	2	25	7	10	2	13	2	12	9	0	32	20	6	3	
12月	3	2	0	1	4	5	1	2	1	1	3	2	3	6	3	4	0	
1月	0	1	0	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	
2月	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
3月	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	2	2	0	
合計 （4月～9月）	75	35	45	56	84	55	43	44	78	48	63	82	44	82	86	63	68	109
合計 （4月～3月）	144	47	59	63	150	81	77	56	121	56	105	108	53	157	158	88	75	109

※平成18年度は、4月～9月の月別の件数は把握していない。

クマ出没件数（月別）

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
4月	163	156	273	323	314	521	459	506	479	548	446	515	537	437	571
5月	422	634	557	1,083	1,064	1,397	1,396	1,880	1,655	2,056	1,651	1,622	1,612	1,526	1,946
6月	786	1,281	1,020	1,803	1,837	1,915	2,072	3,626	2,934	3,113	2,929	2,814	2,412	2,413	2,983
7月	882	1,430	1,323	2,103	1,798	2,190	1,909	3,240	2,670	2,503	3,205	2,994	2,406	1,939	2,667
8月	1,078	2,504	1,347	2,498	1,799	2,691	1,473	2,520	2,279	2,023	2,663	3,303	1,762	1,809	1,949
9月	382	3,406	588	2,105	914	2,884	675	1,418	1,347	812	2,159	2,539	1,073	1,050	2,583
10月	194	5,290	637	873	615	2,546	845	2,589	771	727	2,679	4,213	1,393	1,026	
11月	95	2,781	409	9	539	1,400	441	1,855	411	666	1,951	2,288	1,062	562	
12月	31	258	0	0	177	194	170	347	141	198	374	367	310	183	
1月	16	38	0	0	31	31	39	41	43	42	100	59	47	42	
2月	5	29	0	0	13	28	18	32	20	38	63	71	50	50	
3月	22	44	0	0	33	69	58	62	62	83	97	102	79	98	
合計 （4月～3月）	4,076	17,851	6,154	10,797	9,134	15,866	9,555	18,116	12,812	12,809	18,317	20,887	12,743	11,135	12,699
合計 （4月～9月）	3,713	9,411	5,108	9,915	7,726	11,598	7,984	13,190	11,364	11,055	13,053	13,787	9,802	9,174	12,699

クマ許可捕獲数（月別）

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
4月	2934	91	165	174	167	131	162	195	264	280	234	324	276	299	287	257	245	236
5月		105	71	112	156	175	144	218	246	146	241	262	290	413	457	425	420	400
6月		110	77	126	125	128	180	160	220	250	378	391	501	629	612	553	526	627
7月		165	120	180	248	219	391	248	475	339	640	516	718	992	859	704	666	825
8月		485	404	558	840	436	945	466	846	466	870	958	894	1348	1528	920	939	1062
9月		236	355	345	927	352	973	268	1046	219	607	749	410	1129	1183	637	509	1155
10月	1531	138	162	143	851	226	353	163	732	145	480	493	238	835	1408	510	331	
11月	645	53	106	34	618	89	111	90	279	70	294	225	205	536	801	370	180	
12月	23	8	17	10	41	13	10	16	14	8	37	26	43	63	93	91	46	
1月	4	1	1	1	1	0	5	0	3	0	1	2	2	8	8	10	10	
2月	7	0	0	0	4	0	0	0	2	0	1	1	0	3	2	9	4	
3月	9	1	15	1	6	3	6	4	10	4	4	5	9	30	16	8	10	
合計（4月～9月）	2,934	1,192	1,192	1,495	2,463	1,441	2,795	1,555	3,097	1,700	2,970	3,200	3,089	4,810	4,926	3,496	3,305	4,305
合計（4月～3月）	5,153	1,393	1,493	1,684	3,984	1,772	3,280	1,828	4,137	1,927	3,787	3,952	3,586	6,285	7,254	4,494	3,886	4,305

※平成18年度は、4月～9月の月別の件数は把握していない。

参考資料５

堅果類の着花結実情報について（速報値）

令和5年10月30日時点

都道府県	令和5年度結実状況			令和5年度開花状況			令和4年度結実状況		
	ブナ	ミズナラ	コナラ	ブナ	ミズナラ	コナラ	ブナ	ミズナラ	コナラ
北海道	不作	不作	－	―	―	―	不作	不作	―
青森	大凶作	－	－	大凶作	―	―	並作	―	―
岩手	確認中	確認中	確認中	―	―	―	並作	不作	不作
宮城	凶作	凶作	－	―	―	―	並作	並作	―
秋田	凶作 （速報値）	凶作 （速報値）	凶作 （速報値）	大凶作	―	―	並作	―	―
山形	調査中	調査中	調査中	凶作※	―	―	並作	凶作～豊作	凶作～豊作
福島	凶作	並作	並作	凶作	並作	並作	豊作	並作	並作
栃木	凶作～並作	凶作～並作	不作～並作	凶作～並作	―	―	並作	凶作～並作	凶作
群馬	大凶作	不作	不作	―	―	―	不作	不作	不作
埼玉	―	―	―	―	―	―	―	―	―
東京	凶作 （速報値）	凶作 （速報値）	凶作～並作 （速報値）	凶作～豊作	凶作～豊作	並作～豊作	凶作～豊作	凶作～並作	凶作～並作
神奈川	凶作	凶作	凶作～並作	凶作	凶作	凶作～並作	大豊作	凶作	並作
新潟	凶作	不作	不作	―	―	―	並作	並作	並作
富山	不作 （東部：凶作、西部：不作）	不作 （東部：不作、西部：不作）	不作 （東部：並作、西部：不作）	凶作～並作	―	―	不作	不作	並作
石川	並作	並作	並作	並作	豊作	並作	凶作	豊作	並作
福井	確認中	確認中	確認中	―	―	―	不作	並作	並作
山梨	確認中	確認中	確認中	凶作～並作	並作	並作	並作	並作	並作
長野	確認中	確認中	確認中	―	―	―	大凶作～豊作	大凶作～大豊作	大凶作～大豊作
岐阜	凶作	凶作	並作	―	―	―	凶作	凶作	凶作
静岡	－	－	－	―	―	―	―	―	―
愛知	―	凶作	並作	―	―	―	―	並作	並作
三重	―	―	―	―	―	―	―	―	―
滋賀	凶作	不作	不作	―	―	―	凶作	不作	不作
京都	凶作	並作	並作	―	―	―	凶作	並作	凶作
大阪	確認中	確認中	確認中	―	―	―	―	―	―
兵庫	確認中	確認中	確認中	―	―	―	大凶作	並作上	並作上
奈良	確認中	確認中	確認中	―	―	―	並作下	並作上	並作下
和歌山	－	―	―	―	―	―	―	―	―
鳥取	凶作	並作下	並作下	並作下	並作上	並作下	並作上	並作上	並作上
島根	凶作	凶作	並作	―	―	―	凶作	豊作	並作
岡山	並作	凶作	並作	―	―	―	並作	並作	並作
広島	－	凶作	並作	―	―	―	―	公表しない	公表しない
山口	－	―	並作	―	―	―	―	―	凶作
計	豊作 0 並作 3 凶作 15	豊作 0 並作 5 凶作 14	豊作 0 並作 13 凶作 5	豊作 0 並作 6 凶作 5	豊作 1 並作 4 凶作 1	豊作 1 並作 5 凶作 0	豊作 2 並作 13 凶作 10	豊作 2 並作 15 凶作 6	豊作 0 並作 16 凶作 7

注1：　茨城県、千葉県、四国4県及び九州沖縄8県の各県においては、クマが生息していない又は捕獲の実績がないため表示していない。

注2：　「並作～豊作」は豊作、「凶作～並作」・「凶作～豊作」・「豊作～並作」は並作、「不作」は凶作として集計